

実践報告

札幌市立山鼻小学校

(1) 研究内容

研究課題：「サッポロピリカコタン」の活用に関する研究 ～ホンモノにふれる～サッポロピリカコタンの施設見学と同施設の体験プログラムを活用し、アイヌ民族の歴史や文化などについて直接学ぶ体験学習

- 北海道の先住民族であるアイヌ民族の歴史や文化、思想について体験を通して学習することで、アイヌの方々の生き方について理解を深める。
- アイヌ民族の生き方から、人・もの・自然、全てに対する畏敬・感謝の気持ちを学び、互いの「生命」を尊重し合うような態度を育てる。

(2) 実践の内容

【実践】「札幌市アイヌ文化交流センター『サッポロピリカコタン』における体験学習」について

○ ねらい

- ・ 見学や体験的な活動を通して、アイヌ民族の歴史や文化についての理解を深める。
- ・ 自分たちとは異なる生活や文化、思想をもつ人たちの生き方から、人や自然を大切にすることを大切にする心をもつことの重要性と、そのための自分たちの行動等について考える。

○ 学習内容

①社会科「昔から今へと続くまちづくり」を通して

- ・ アイヌ民族の暮らしぶりを調べる中で、衣食住だけでなく、生活に使用する道具の中にも「神」の存在や自然への畏敬・感謝の気持ちなど、自然とともに生きる考え方について学ぶことができた。

②出前授業「夷酋列像から学ぶアイヌ民族の歴史」を通して

- ・ 「夷酋列像」の絵画を通し、アイヌ民族の歴史について学ぶことで、先住民族としてのアイヌ民族、和人との関わり、開拓の中に生きたアイヌ人々の大変さや苦労など、様々な観点でさらに深く知識を得ることができた。

③「サッポロピリカコタン」での体験学習

- ・ アイヌ文化交流センターの方々からお話を聞いたり、一緒に体験的な活動を行ったりすることで、実感を伴ってアイヌ文化に触れることができた。

≪活動内容≫

- 1) アイヌ文化・アイヌ語についての講話
- 2) ムックリ・トンコリ演奏
- 3) アイヌ舞踊披露・体験
- 4) アイヌ文様切り絵体験



(3) 研究のまとめ

①成果

- ・ 教室での座学でもアイヌ民族の考え方、歴史などを学ぶことはできたが、実際に楽器の演奏を聞いたり、アイヌ語の発音を聞かせてもらったりというサッポロピリカコタンでの体験的な活動によって、アイヌ民族という存在がより身近に感じられるようになった。アイヌ文化交流センターの方々の御指導・御協力で、たくさんの本物に触れる体験ができたことがよかった。特にアイヌ文様切り絵体験は、子どもがさらにアイヌ文化に興味をもつ大きな一因となり、素晴らしい活動であった。見学後には、家庭学習で文様の切り絵に取り組んだり、アイヌ文様のもつ意味について深く調べたりと学習を広げていく子どもの姿が見られた。
- ・ 学習の始めは、アイヌ民族を「自分たちからは遠い存在」「昔の北海道にいた方々」として認識していた子どもたちも、様々な学習活動を通して「自分たちの住む北海道の礎を築いたアイヌ民族の方々への感謝」「自然や他者を大切にしているアイヌ民族の考え方の素晴らしさ」などを感じることができた。

②課題

- ・ サッポロピリカコタンの活用にあたっては、講話、室内での体験学習、館内見学、屋外見学と学習の場面が多岐にわたるので、ある程度余裕をもった時間設定での見学となるように工夫すべきだった。また、屋外の見学を重視する場合、季節を考えて見学を設定することで、見られるものが変わってくるので、検討すべきである。
- ・ サッポロピリカコタンでの学習によって、アイヌ民族の歴史や文化などについてさらに実感を伴った理解を得ることができたが、「人権」についての学習と考えると、社会科にとどまらず、他教科・他分野に派生しながら学習を進めていく必要がある。



③ 提言「人権教育のすすめ」

- ・ 自己と他者の人権を尊重する態度を育てることと、今回の学習内容とがつながる部分は、「人・もの・自然への感謝・畏敬の念」であると考えられる。独善的にならず、他者とつながりながら生きることが人権を尊重することであるならば、人・もの・自然の全てに感謝し、思いを馳せるアイヌ民族の姿勢は、互いを尊重し合いながら未来を生きる子どもたちにとって、非常に価値ある学びとなるだろう。「人権」という言葉の前に、子どもたちに「互いを理解し、受け入れ、大切にしよう姿勢」を伝えられる学習として、今後も大切にしていきたい。
- ・ 「人権教育」として今回は社会科のアイヌ民族の学習を行ったが、さらに発展していくことを考えると、総合的な学習の時間での国際理解教育や、道徳教育との連携を模索していきたい。

